自治研修所に思うこと

船津　秀樹
〈小樽商科大学助教授〉

この二、三年、自治研修所で経済関係の問題について講義させていただいてます。実際の経済の動きの中で実務を担当している方々の前でお話するのは、大学で社会に出る前の学生達に対するのとは違った意味で大変良い刺激となり自分の勉強にもなっています。

自治研修所のある野幌原始林は、小学校時代によく遠足に来た所で、時々、研修所の窓から見る風景に過ぎ去った日々を想い出すこともあります。二十年前にはのどかな田園風景の中を走り抜けるＳＬの勇姿に胸を躍らせていたものです。

これからの二十年間は、今までの二十年間にも劣らず北海道にとっては大切な時期でしょう。経済の国際化による産業構造の大きな変化の中でどうやって真の意味で豊かさを実感できる経済社会を地域において実現していくか大変難しい課題に我々は直面しています。北海道では札幌など一部の都市を除いて各自治体では人口の減少傾向による様々な問題を経験しています。日本は二十一世紀には他の先進国でも経験したことのない速度で高齢化社会になっていくと予想されていますが、北海道の自治体では少し早くその対応に迫られているとも言えます。

近年、経済問題を議論する場合にとかく生産の効率性を重視する傾向が強かったと思います。一九九〇年代には、もう一度福祉国家の理念が問い直されるのではと思います。自治研修所が持つその本来の機能を十分に発揮されてより良い地域社会を実現するための学びの場となりますよう心から期待しています。